



施策 地球温暖化対策

目指す
状態

持続可能な未来へつなぐ
「脱炭素のまち 柏」を実現します。



第1章 はじめに

第2章 基本構想

第3章 基本計画

第4章 計画の推進にあたって

第5章 資料編

1 施策の現状と課題

- 政府は2020年（令和2年）10月に、2050年（令和32年）までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを宣言し、本市も2022年（令和4年）2月に、市域の二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」宣言を行いました。
- ゼロカーボンシティの実現に向け、2030年度（令和12年度）の本市域の温室効果ガス排出量を2013年度（平成25年度）比で46%削減することを目標としています。
- 2020年度（令和2年度）の温室効果ガス排出量は18.7%削減となり、一定の削減が進んでいますが、削減目標の達成に向けては再生可能エネルギーの導入や省エネの推進などを、より一層進めていく必要があります。
- 本市の再生可能エネルギー導入ポテンシャルについて、風力発電や水力発電等の実施は難しいと考えられますが、太陽光発電設備については一定の導入ポテンシャルが存在しています。

施策の方向性 省エネの促進と再エネの普及・利用促進を図る

家庭や事業所におけるエネルギーの効率的な利用を促進できるよう、ZEH・ZEB、省エネ改修の推進や、電気自動車・ハイブリッド自動車の普及を図ります。
太陽光発電設備の普及を図るとともに、発電量の調整やレジリエンス強化の視点から蓄電池の普及を図ります。
廃棄物発電等のクリーンエネルギーを公共施設へ供給することにより、エネルギーの地産地消の実現を目指し、公共施設からの温室効果ガス排出量を削減するとともに、利益を原資として市内における再エネ普及等、地域課題の解決に取り組みます。

2 施策の現状と課題

- 都市・地域構造や交通システムは一度整備すると設備等が中長期的に存在し続けることから、設備等や交通状況から排出される温室効果ガス排出量が固定化される要因になります。

施策の方向性 環境に配慮したまちづくりを促進する

まちのエネルギーシステムの効率化に向けて再生可能エネルギー設備の導入、建物の省エネルギー化、敷地内緑化や屋上・壁面緑化を推進するとともに、交通環境の改善に向けて拠点への都市機能の集積や公共交通の利便性の向上を図ります。